第５節　目標５　学び合い人と文化を育むまち

120～121ページ

５-１　学校教育の充実

　郷土への愛着と誇りを持ち、未来を拓くたくましい安曇野の子どもを育み、活力に満ちた

特色ある小中学校づくりを進めます。

現状と今後＆取組の方向

○総合的・探究的な学習が求められる

　学力の向上には、小中学校が連携した学習指導が効果的とされています。加えて、運動する機会をつくることも大切です。　また、学力の向上だけでなく、総合的な学習の時間や探究的に学ぶ学習を通じて、自ら学ぶ力や地域への愛着を育むことも重要です。　児童生徒の登校について、自宅と学校の距離が遠い児童生徒が通学しやすいようスクールバスの運行を行っています。

○主体的・探究的に学び合う教育の充実

・ 市校長会と連携して全国学力・学習状況調査結果を分析し、学習指導の改善を図ります。・ 「安曇野の時間（仮称）」を導入し、地域の理解や郷土を思い愛する心を育みます。・ 体づくり運動に親しむ機会の充実のため、教員を対象とした研修機会を設け、授業などで活用できるようにします。・ 長距離を通学する児童生徒の交通手段としてスクールバスの運行を継続します。

○特別な配慮を必要とする子どもの増加

　発達における個々の特性に加えて、家庭環境や社会状況、文化的背景などの要因から、学び方や生活様式が多様化し、特別な配慮や社会的援助を要する子どもの数が増加しています。　また、不登校傾向にある児童生徒の在籍率は、国・県同様、増加傾向にあり、ここ数年は小学校での増加が顕著です。

○子どものニーズに応じた支援の充実

・ 子どもの家庭状況やニーズに応じた支援を行うため、医療や福祉、司法などの関係機関と幅広く連携した支援を行います。・ 不登校やいじめ、対人関係に悩む子が気軽に相談できる支援体制を整備し、多様な学びの場をつくります。・ 発達上の悩みがある子や医療的ケアを必要とする子への支援体制の充実を図ります。

○学校施設の老朽化が進む

　本市の小中学校は、建築後40年以上経過した校舎の保有面積が４割を超え、学校施設の老朽化が顕著となっています。また、旧町村において建築された校舎は、建築時期がほぼ同じであるため、更新時期が集中する課題があります。

○長寿命化計画に基づく学校施設の改修

・ 各施設の老朽化に応じた大規模改造や、長寿命化改修を計画的に行い、学校施設の機能維持を図ります。

○食育・地産地消の実施

　安曇野市学校給食理念（目標）を制定し、学校給食法に定める目的や目標を達成するための取組を行っています。　月に一度、「安曇野の日」献立による給食を実施し、旬の安曇野産食材を取り入れ、地域の伝統食や季節の行事食などの提供に努めています。

○安曇野型食育・地産地消の推進

・ 市が目指す「小中一貫教育」の趣旨に伴い、同一給食センターからの給食を提供することにより、食物アレルギー対応など継続的な支援を実現します。

指標・目標値

①「主体的・対話的で深い学びができている」と回答した児童生徒の達成度（％）

R4現状値　78.6

R9目標値　90.0

②新規不登校児童生徒の割合（％）

R4現状値　1.8

R9目標値　1.3

③学校給食での地場産物（安曇野産）の使用割合（％）

R4現状値　25

R9目標値　29

価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち

・ 不登校やいじめ、対人関係に悩む子が気軽に相談できる体制を整備し、「楽しい、学びたい」と思える学校づくりを推進します。

文化・芸術中核都市の実現

・ 公私立の美術館・博物館と連携し小中学校への出前展覧会「学校ミュージアム」や収蔵資料を活用した体験講座を開催します。・ 安曇野の先人が営んできた暮らしの体験講座や、近代化に尽くした先人たちを学ぶことができる出前講座を開催します。・ 大学と連携した事業や専門家を招く教室など、国内外で活躍する芸術家と市内の子どもが交流する機会を創出します。

122～123ページ

５-２　家庭・地域との連携の推進

　学校と家庭、地域が連携・協働する体制を構築し、地域ぐるみで子どもたちの学びや成長

を支えます。

現状と今後＆取組の方向

○成長を支える地域社会の構造が変化

　家族形態や価値観の変化、ライフスタイルの多様化、人間関係の希薄化などにより地域社会の構造が大きく変化しています。　そのような中、学校と地域、家庭が子どもたちのためにともに考え、ともに行動することで子どもたちの学びと成長を支える取組が求められています。

○家庭や地域とともにある学校への転換

・ 子どもに必要な資質や能力を育むため、安曇野市コミュニティスクール事業を実施し、学校と地域の連携を推進します。・ 保護者や地域住民が学校運営に参加する「学校運営協議会」を小中学校に設置し、学校運営の改善や課題の解決を図ります。・ 保護者や地域住民による授業支援や地域との合同で行う防災教育など、地域と学校による協働活動に取り組みます。・ 学校と地域のつなぎ役である地域コーディネーターを小中学校に配置します。・ 社会福祉協議会との連携や、地域の公民館で連絡会を開催し、情報共有や活動支援を行います。

○交流、学びの場である地域社会

　核家族化や少子化の進展による地域社会や家庭での人間関係の希薄化などにより子どもを取り巻く環境は大きく変化しています。　地域社会は子どもや若者にとって、様々な人と触れ合える交流の場であり、学びの場です。　子どもたちが主体性をもって行動し、人間性や社会性を育むためには、学校や家庭、地域社会が一体となった地域ぐるみの青少年育成活動が重要です。

○地域ぐるみの青少年育成

・ 地区子ども会育成会の活動を支援し、子どもたちが家庭や学校以外でも、いきいきと活躍できる場づくりに努めます。・ ジュニアリーダー養成講座を開催し、地域と一体となった「子どもの手による子ども会」活動の推進を目指します。・ 放課後子ども教室に地域の方を講師として招き、世代間交流や体験活動を通して子どもを育み、地域の活性化につなげます。

指標・目標値

①【戦略】市民意識調査「小中学校と地域･家庭の連携が図れている」と思う市民の割合（％）

R4現状値　28.5

R9目標値　36.2

備考　総合戦略ＫＰＩ、「満足」＋「まあ満足」の割合

②放課後子ども教室登録率（％）

R4現状値　24.0

R9目標値　28.0

価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち

・ 安曇野市コミュニティスクール事業を通じて、学校と地域の協働による学校を核とした地域づくりを進めます。・ 地域と学校をつなぐことで、高齢者などの活躍の場や生きがいづくりの場を創出し、地域の活力の向上を図ります。

124～125ページ

５-３　生涯を通じた学びの創出

　全ての人が生涯を通じて主体的に学ぶことができ、また、その成果を地域で生かせる環境

を整え、よりよいまちづくりを進めます。

現状と今後＆取組の方向

○生涯学習の多様化が進む

　人生100年時代といわれる現代において、誰もが健康で生きがいをもち、安心して暮らせる社会の実現は重要なテーマです。　その実現にあたって、大きな役割を担う生涯学習の促進が求められています。　また、インターネットやSNSの普及などにより、学習スタイルなどにも大きな変化がみられており、多様な学びに応えられる環境づくりが必要になっています。

○学習機会の充実

・ 生涯を通じて豊かに生きるための学びの継続や学び直し（リカレント教育）を推進します。・ 公民館や交流学習センターの利用満足度の向上を図るため、学習情報の発信や各世代に応じた学習機会の提供を積極的に行います。・ インターネットやSNSの活用により、生涯学習に取り組みやすい環境づくりを進めます。

○成果発表の機会の確保

　学びの成果を発表することは、活動意欲の向上や交流を生むだけでなく、新たな学習に取り組むきっかけにもなります。　生涯学習には多種多様な活動がある中で、市民や団体が学習成果を発表する機会に恵まれているとは必ずしもいえないのが課題です。

○生涯学習の成果の活用

・ 地域文化祭などの成果発表の機会の充実や地域貢献に生かせる指導者などの人材育成につなげるなど、成果を発表する機会を積極的につくり出し、活動意欲の向上を促します。・ 市民の日頃の学習成果を発表する場として公共施設の利用を促し、活動意欲の向上につなげます。

○多様化する市民の「学び」

　市内の図書館の蔵書数は、40万冊に達していますが、アンケートなどでは新しい本、雑誌などの図書館資料の充実を望む意見や視聴覚資料に関する満足度が他の資料に比べ低いといった声があります。　交流学習センターとの複合施設となっている公立図書館の特徴を生かし、多様化するニーズに応えるとともに、気軽に利用できる身近な図書館として様々な「学び」の場となるようサービスの充実が求められています。

○図書館サービスの充実

・ 子どもから高齢者まで幅広い市民の「学び」に応えるよう、資料の収集及び検索体制の充実を図ります。・ ニーズに対応したサービス提供に努めるため、市外の図書館や市内生涯学習施設、文化施設、学校などと連携した取組として共同の企画や展示などを実施します。・ 全ての市民が、身体的・環境的・地域的・経済的なバリアを超えて読書に親しむことができるよう、電子図書館の活用を推進し、「学び」の裾野を広げます。

指標・目標値

①生涯学習講座参加者数（人）

R4現状値　11,668

R9目標値　23,000

②地域文化祭出演団体数（団体）

R4現状値　96

R9目標値　117

③図書館の市民１人当たりの貸出冊数（冊）

R4現状値　8.1

R9目標値　9.0

トピックス

人口１人当たりの図書館貸出冊数は8.1冊で、県内19市中第２位（令和３年度）

県立長野図書館・長野県図書館協会「長野県公共図書館概況」

価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち

・ 全世代にわたる生涯学習の取組を広げます。・ 外国籍市民などに向けた日本語教室を開催します。・ 誰もが読書に親しむことができるよう、障がい者に対応した資料やサービスの充実に努めます。

文化・芸術中核都市の実現

・ 文化施設に加え、公共施設や商業施設などの連携を促進し、市全体で文化芸術活動が行われる環境づくりに取り組みます。・ 市民の今後の活動展開につなげるため、文化施設での公演や作品展示などの活動支援に取り組みます。

ページ126～127

５-４　スポーツを楽しむ環境の充実

　安曇野の豊かな環境を生かしたイベントや大会、教室、障がい者スポーツの推進などを通

じて、地域活力の創出や絆づくりを目指します。

現状と今後＆取組の方向

○幼児期からのスポーツへの取組が重要

　市では、平衡感覚や運動神経が発達する幼児期からの基礎体力向上に向け、運動神経を鍛えるトレーニングの拡充に力を入れています。　子どもたちの基礎体力の向上には、スポーツが好きと感じることが大切であり、幼児期からスポーツに慣れ親しむ取組が重要です。

○基礎体力の向上を推進

・ 幼児を対象とした運動神経を鍛えるトレーニングを推進します。・ スポーツ協会との連携により、スポーツ少年団の活動を支援します。・ 親子でスポーツに親しむ機会を創出するため、親子スポーツ教室を開催します。・ ジュニアスポーツ選手の育成を支援し、世界で活躍する人材の輩出を促進します。

○指導者の不足が課題

　少子高齢化が進む中、指導者の高齢化や担い手不足が課題となっています。　また、中学校の部活動では、教員だけでは部活動を支えられない状況になりつつあります。　このような中、身近な地域で幅広い世代が個々の興味やレベルに合わせてスポーツに親しむことができる「総合型地域スポーツクラブ」の存在は重要です。　しかし、その認知度は高いとはいえず、認知度の向上に向けた取組が求められています。

○指導者の育成と組織体制づくり

・ スポーツ指導者の資質向上のため、研修会や講習会の充実を図ります。・ 地域人材のマッチングにより、部活動の指導者などへの地域人材の活用を図ります。・ 公的な指導に関わる資格の取得や更新を支援する仕組みを検討します。・ 既存のスポーツクラブへの支援を強化し、地域の関係団体と連携することで、「総合型地域スポーツクラブ」の認知度を高めます。

○「する」「みる」スポーツを通じた交流の拡大

　多くの人にスポーツを楽しんでもらうためには、幼児から高齢者まで各年齢層に合ったスポーツ活動の機会を増やすことが必要です。　また、年齢層の違いやニーズの多様化に合わせた「する」スポーツに加え、高い技術にも触れることができる「みる」スポーツの推進にも力を入れる必要があります。

○スポーツに触れる機会の創出

・ 市民スポーツ祭の開催を通じて市民間での交流を深め、市としての連帯感を醸成します。・ 市民がスポーツに親しむ機会を拡充するため、総合体育館を拠点としたスポーツ教室などを開催します。・ 高いレベルの競技大会を総合体育館で開催することで、スポーツを「みる」機会を増やします。・ 安曇野市をホームタウンとするプロリーグチーム選手と市民の交流機会を創出します。

指標・目標値

①【戦略】市民意識調査「スポーツを楽しめる環境が整っている」と思う市民の割合（％）

R4現状値　36.2

R9目標値　40.0

備考　総合戦略ＫＰＩ、「満足」＋「まあ満足」の割合

②総合型地域スポーツクラブ参加者数（人）

R4現状値　480

R9目標値　1,000

③体育施設利用者アンケートによる満足度（％）

R4現状値　63.8

R9目標値　70.0

備考　「満足」の割合

価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち

・ ユニバーサルデザインに配慮した施設の改善を計画的に進めます。・ 障がい者スポーツの普及を推進します。また、障がい者スポーツの大会や指導者講習、ボランティア講座などの情報を市民に提供し、参加促進を図ります。選ばれ続けるまち、安曇野

・ スポーツイベントや大会の開催、中学校の部活と指導者のマッチングなどを通じた交流人口・関係人口を創出します。

アウトドア・スポーツの聖地

・ 市内でのアウトドア・スポーツの振興や、アウトドア・スポーツを通じた域外居住者などとの交流を図ります。

128～129ページ

５-５　文化・芸術活動の推進

　市内の美術館・博物館の活動を活性化するとともに、市内外の芸術家などの活躍の場を増

やすことで、芸術文化の振興を図ります。

現状と今後＆取組の方向

○アーティスト・イン・レジデンスへの注目

　近年では、表現手段が多様化し、これまで美術館・博物館では扱いきれない作品も現代のアートとして注目が高まっています。　このような中、芸術家が市内に滞在し、創作をしながら、市民と交流するアーティスト・イン・レジデンスの取組が注目されています。　本市でも、アーティスト・イン・レジデンスを推進することで、地域の文化を刺激し、芸術家を育てる事業として積極的に取り組んでいくことが求められています。

○アーティスト・イン・レジデンスの実施

・ 東京藝術大学の学生などを対象としたアーティスト・イン・レジデンスを実施します。・ アーティスト・イン・レジデンスの滞在拠点となる施設の整備を行うとともに、将来的なサテライトキャンパスの設置を目指します。・ 信州アーツカウンシル（長野県文化振興事業団）や外部の文化団体の事業に参画し、アーティストを招致します。・ 安曇野市文化振興基金を設け、芸術文化活動の振興に努めます。

○創作活動の発表機会の確保が求められる

　市内には、多数の美術館や博物館、ホールのほか、交流学習センターなどの展示室を備えた文化施設があります。　各施設には、学芸員やホールの担当者など、文化事業をサポートする職員を配置し、展示作業や事業の発信などをサポートしています。　市内の文化芸術環境をさらに充実させるためにも、市民や芸術家の創作活動の発表機会の確保をいかに進めていくかが重要です。

○創作活動の発表・発信をサポート

・ 安曇野の芸術家や工芸家が自身のアトリエで作品を紹介する「安曇野スタイル」や、工芸家が作品を展示販売する催し「安曇野さんぽ市」などの事業に、市内の文化施設が参画し、会場や運営に協力します。・ 美術館や公共施設などで、市内の芸術家や工芸家を紹介する企画展を開催します。・ 若手音楽家などを対象とした新進音楽家演奏会などを実施し、新たに芸術に取り組む人材の発掘に努めます。

○美術館・博物館の連携

　市内にあるおよそ20館の公私の美術館・博物館が連携し、学校への出前展示や講座などを通じて、安曇野ゆかりの芸術や文化財に触れる機会を設けています。　また、県内においても、県民主体・地域主体の文化芸術活動を支援する信州アーツカウンシルの事業が展開されています。

○美術館・博物館の活性化に向けて

・ 公私の美術館や博物館、文化施設で連携した取組を実施し、文化サークル活動の支援を通じて、市民文化活動の高揚を図ります。・ 信州アーツカウンシルや外部の文化団体の事業に参画し、広域で連携した事業を展開します。

指標・目標値

①交流した市外学生の人数（人）

R4現状値　20

R9目標値　70

備考　楽器演奏指導、漆芸講座、アーティスト・イン・レジデンスなど

②新進音楽家の登録者数（人）

R4現状値　52

R9目標値　75

③公立美術館の入場者数（人）

R4現状値　31,263

R9目標値　62,000

備考　豊科近代美術館、田淵行男記念館、安曇野髙橋節郎記念美術館、穂高陶芸会館

トピックス

博物館・博物館類似施設数は18施設で、県内19市中第３位（平成30年度）

文部科学省「社会教育調査」

価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち

・ 施設のバリアフリー化やユニバーサルデザインの導入を進めます。また、外国籍住民や子ども、障がい者などに配慮した展示を行います。

文化・芸術中核都市の実現

・ サテライトキャンパスの実現に向け、市外の大学生などを招くアーティスト・イン・レジデンスを実施します。

・ 文化施設の運営に関わる人材の育成、活動の充実を図ります。

130～131ページ

５-６　歴史・文化遺産の継承

　先人たちが培った歴史・文化遺産を後世に伝えていくため、地域にある文化財の保存と活

用を市民と協働で行い、市民が身近に歴史・文化遺産を親しめるまちをつくります。

現状と今後＆取組の方向

○文化財などの継承が困難に

　文化財の維持費用などを要因に、地域の文化財や文化の継承が困難になっています。　今後は、文化財を守るだけでなく、活用することで、文化財を継承していく視点が求められています。　また、文化財の活用にあたっては、文化財単体ではなく、文化財相互の関係性を生かしたストーリーの構築や他産業との連携を図ることも有効であり、積極的に推進する必要があります。

○文化財の「保存と活用」を推進

・ 文化財を後世に伝えるため、文化財に関する調査を実施し、文化財指定を進めます。・ 文化財の保存・活用の方法を示す保存活用計画に加え、市全体の文化財を対象とした保存活用地域計画の策定を進めます。・ ＮＰＯ法人や市民団体と連携し、文化財の保存と活用を図ります。・ 講座や企画展、地区公民館の活動を通じて、伝統文化や郷土芸能の継承に取り組みます。

○地域資料を利用しやすい環境が求められる

　安曇野市域の歴史を後世に伝えるため、歴史的・文化的に価値のある公文書や地域資料などを収集・保存するとともに、市民が利用しやすい環境づくりが求められています。　また、文書館では、一般向けに古文書講座を開催するなど、資料への関心を高めてもらう機会を設けていますが、文書館に対する市民の認知度は、高いとはいえない状況です。

○地域を知るための資料の蓄積

・ 重要文書の選別や地域に伝わる古文書などの資料を調査し、資料の散逸を防ぎます。・ 文書館の活動への理解や館蔵資料の活用を促すため、文書館の収蔵資料を活用した講座などを開催します。・ 資料などのデジタル化を進め、市民が利用しやすい環境を整備します。

○多様な手段による発信が必要

　後世に伝え、残したい地域の民俗や歴史、自然環境などの安曇野の魅力を、展示や講座、刊行物の頒布などを通じて発信しています。　今後は、より広く市民に対して情報を発信するため、多様な手段を検討する必要があります。

○歴史文化遺産の魅力を広く発信

・ 博物館での展示や出前講座の充実を図ります。・ 学校や公民館、商業施設などへ直接出向くコンパクト展示を積極的に実施し、歴史文化遺産の魅力を市民へ積極的に発信します。

○美術館・博物館の統廃合

　平成27（2015）年度に、美術館・博物館の統廃合や老朽化した博物館のあり方を示した新市立博物館構想を策定しましたが、社会情勢の変化などを踏まえ、構想を見直す必要が生じています。

○新市立博物館の設置への取組

・ 博物館資料の収集・整理・保存・活用をより効果的に行い、利用者に親しまれる施設とするため、新市立博物館の整備に向けた取組を継続します。

指標・目標値

①公立博物館の入場者数（人）

R4現状値　18,668

R9目標値　21,000

備考　豊科郷土博物館、貞享義民記念館、穂高郷土資料館、臼井吉見文学館、飯沼飛行士記念館、天

蚕センターの合計

②公立博物館の講座などの参加者数（人）

R4現状値　4,100

R9目標値　4,600

価値創出プロジェクトに関連した取組

誰もが活躍する共生のまち

・ 博物館の展示や出前講座の内容などを工夫し、外国籍住民や子ども、障がい者などに配慮したものを目指します。

文化・芸術中核都市の実現

・ 文化財相互の関係性を生かし、他分野との連携を図ることで、地域が持つ歴史や伝統文化の魅力を感じてもらう取組を推進します。